

本のちらし

2007年7月号

本屋探訪



contents



- ・本屋探訪 第四回 ... 1ページ
- ・助っ人新旧古本勝負 ... 2～3ページ
- ・徹底図解 これが本の雑誌だ！ ... 4ページ

004

製作：本の雑誌助っ人一同

病的な古本好きにとつて、初めて入る古本屋とは、古書市の初日の次の次くらいにワクワクするものです。しかもその店がとて面白い店だったら、その上棚に黒っぽい本がたくさん並んでいたら、これはもう古書市の初日に匹敵するくらいワ

クワクワしてしまいます。どんな本があるかな、探している本が見つかったら良いなあ、なんていう期待に胸が膨らみます。今回は去年、岡山旅行に行った際に立ち寄った、そんな黒っぽい本のたくさんある広くて素晴らしい古本屋を紹介します。その古本屋の名前は万歩書店。岡山市内の本店と倉敷店とがあるのですが、僕が行ったのは本店の方です。店内は滅茶苦茶な広さで、全ての棚を見てまわったら本当に一万歩かかってしまふんじゃないかというくらいです。しかも品揃えが濃い。例えば僕の好きなミニテリに限定しても、某探偵雑誌の大判があったり、甲賀三郎選集の端本があったり、東京でもこんな掘り

出しものばっかりの店は滅多に無いよ！ といった感じ。結局、この店に二時間半は居座ってしまいました。購入冊数は十六冊。その中でも手に入れてちよっと嬉しかったのは城戸禮の「電光ヤマネコ娘」（女学生の友 9巻4号付録）。文庫本サイズの附録なんです、題名がお気楽で良いじゃないですか。雑誌の付録なんかには手を出したら泥沼だぞ、などと思いつつも旅先で気が大きくなってしまったのか、ついつい買ってしまいました。いいお店だったなあ。あまりの素晴らしさに自分の中の「どこでもドア」で行きたい場所ランキングで3位になりました。（助っ人 大塚 啓高）

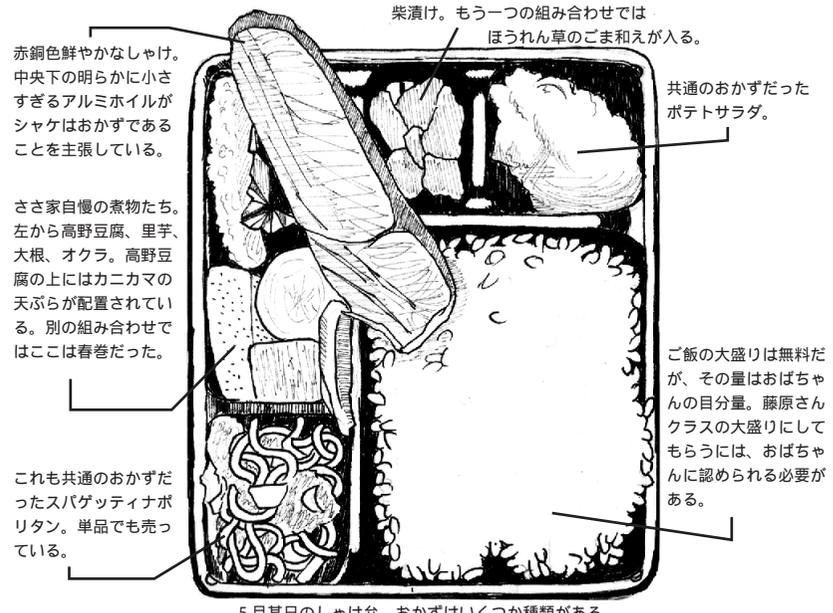
これが
本の雑誌だ!!!

徹底図解

日々面白本を発掘する本の雑誌社ではどんな日常が繰り広げられているのか。浜本さんが自転車で駆け抜けてゆく笹塚はどんな町なのか。新戦力を迎えた本のちらしが精細な図と共に読者のそんな素朴な疑問を明らかにする！ 第一弾は、松村さんが日々食べ続けた笹塚グルメの筆頭、ささ家のしゃけ弁を徹底解剖だ！

ささ屋しゃけ弁 DATA

縦 : 23.5cm
横 : 20.5cm
高さ : 4.2cm
重量 : 641g



赤銅色鮮やかなしゃけ。中央下の明らかに小さすぎるアルミホイルがシャケはおかずであることを主張している。

ささ家自慢の煮物たち。左から高野豆腐、里芋、大根、オクラ。高野豆腐の上にはカニカマの天ぷらが配置されている。別の組み合わせではここは春巻だった。

これも共通のおかずだったスバゲッティナボリタン。単品でも売っている。

柴漬け。もう一つの組み合わせではほうれん草のごま和えが入る。

共通のおかずだったポテトサラダ。

ご飯の大盛りは無料だが、その量はおばちゃんのみ分量。藤原さんクラスの大盛りにしてもらうには、おばちゃんに認められる必要がある。

5月某日のしゃけ弁。おかずはいくつか種類がある。

かつて松村さんはささ家のしゃけ弁の魅力についてこう語った。「ささ家さんのしゃけ弁は、しゃけがご飯の上にあつておかずとは別になつていてので一品お得なのですよ」しかしある日、ささ家弁当は従来の型を放棄し、おかずスペースにしゃけを詰め込むという改革を断行したのであつた!!

おかずの減少という事態に際して松村さんは、「なんだかんだ言つて食べたくなるんだよね」松村さんは今日もしゃけ弁をおいしく食べる。ちなみに食べる方はまずご飯から平らげるスタイルである。

次回の本のちらしは2007年9月号に封入の予定です。